

令和5年第3回（6月）出雲崎町議会定例会会議録

議事日程（第2号）

令和5年6月21日（水曜日）午前9時30分開議

第1 一般質問

本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

○出席議員（10名）

1番	仙海直樹	2番	高橋速円
3番	中野勝正	4番	高桑佳子
5番	宮下孝幸	6番	石川豊
7番	加藤修三	8番	島明日香
9番	小黒博泰	10番	三輪正

○欠席議員（なし）

○地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名

町長	小林則幸
副町長	山田正志
教育長	曾根乗知
総務課長	大矢正人
町民課長	金泉嘉昭
保健福祉課長	権田孝夫
こども未来室長	金泉修一
産業観光課長	矢島則幸
建設課長	小崎一博
教育課長	内藤良治
町民課参事	棚橋まゆみ
建設課参事	寺尾勉
教育課参事	吉岡育子

○職務のため議場に出席した者の職氏名

事務局長	権頭昇
書記	山田祥汰

◎開議の宣告

○議長（三輪 正） ただいまから本日の会議を開きます。

（午前 9時30分）

◎一般質問

○議長（三輪 正） 日程第1、一般質問を行います。

質問の通告がありますので、順次発言を許します。

◇ 小 黒 博 泰 議員

○議長（三輪 正） 最初に、9番、小黒博泰議員。

○9番（小黒博泰） おはようございます。今日の一般質問をさせていただきたいと思います。

まずもって新潟県も11日ですか、梅雨に入りました。ただ、入った後、一日、二日は雨がありましたけども、昨日もいい天気、今日も昨日以上に高温が予想されている日々です。今のところ、今ほど言いましたように雨も少なく、晴れた日は気温が高くなっていく。予報でありますと、7月からまた例年になく猛暑になる予想がなされています。これも今言われています地球温暖化の影響だと思います。地球温暖化の影響なのか、私個人的に栽培していますイチゴのほうも生育不良で、今年も収穫量はもう激減しまして、昨年のもう3分の1以下ぐらいで終わってしまいました。また、今旬でありますサクランボですけれども、サクランボのほうもあまりよくないと聞いております。また、出雲崎の特産である釜谷の梅、これも受粉不良なのか、今年もあまり生育がないという生産者の方からも聞いております。今これからあれですけども、また例年水稲関係も高温にさらされて、品質もちょっとよくない年が続いておりますけれども、これから猛暑における対策、管理が必要とされております。

さて、質問の中身に入りますけれども、5月15日、町ホームページにおいて、新潟県が温室効果ガス削減などを目標とする2050新潟カーボンゼロチャレンジの一環として行うにいがた緑の陣に参加するとありました。これは、植物で日差しを遮り、エアコンの使用量を減らそうとするグリーンカーテンの普及などに県内9市町が取り組むもので、配られたゴーヤからどれだけ多くの実が取れるかを競うほか、グリーンカーテンの講習会や広報活動などにおいてポイントを獲得し、優勝を目指すものであります。グリーンカーテンは、地球温暖化対策として手軽に取り組み、非常によい対策だと私は思います。そこで、以下の質問をいたします。

1つ目になります。にいがた緑の陣に参加をした理由というか、目的を伺いたいと思います。

○議長（三輪 正） 町長。

○町長（小林則幸） 小黒議員の1つ目のご質問にお答えをいたします。

にいがた緑の陣は、新潟県と新潟県地球温暖化防止活動推進センターの地球温暖化防止のための一環の取組でございます。昨年は5市の参加でしたが、今年は本町を含めまして9市町村の参加となっております。本町が参加した理由ですが、にいがた緑の陣はマスメディアを活用しまして、その取組を広く県内にPRをしております。本町は今年度、ご承知のように環境省の補助事業の採択を受けまして、出雲崎町地球温暖化対策実行計画を策定いたしますが、この緑の陣への参加によりまして、本町がゼロカーボンへの取組を始めることを内外に発信できることが参加理由の一つであります。また、にいがた緑の陣の活動内容を町民の皆さんに知っていただき、住民参加の脱炭素社会づくりに向けた取組の一步とするために参加をしたものであります。

○議長（三輪 正） 9番、小黑議員。

○9番（小黑博泰） ありがとうございます。本当に今説明のとおりでもって、新潟県もゼロカーボンチャレンジということできいろいろやっております。そういう中でもって、県のほうもいろいろ脱炭素、CO₂ですか、に向けていろいろなチャレンジもしていますし、国のほうもそれに向けた支援、いろいろ補助事業ですか、も抱えている中でもって、先日も出雲崎地球温暖化対策事業計画策定業務の公募型のプロポーザルの募集も行って、19日に募集終わったと思います。そういう中でもって、これから地球温暖化に対するそういう取組をする町村というか、行政に対して国のほうもそれなりの補助金、助成金を見ている中でもって、非常に取組的にはいいことだと思います。町長も言いましたように、昨年からはまった緑のグリーンカーテンですか、だと思っておりますけども、昨年5つの参加がありまして、これあるのであれなのですけど、上越軍ですか、上越市が優勝ということで、今年4市町が参加で9市町になりました。その中でもって9市町の中でほとんど市というか、大きいところの中でもって、県内10町村の中でもって出雲崎町だけが一応10町村の中に入っているわけで、ほかの町村の中では先陣を切って参加されたということで、非常にいいことだなと私は思っております。

そんな中でもって、2番目に入りますけども、参加した理由を今お聞きしましたけども、ただ参加するだけではやはり意味がないと思います。その目標に向かっていろいろな作戦というか、あると思っておりますけども、ホームページにもいろいろ今までやっていた内容ですか、載っていますけれども、今後の作戦というか、グリーンカーテンの取組の優勝に向けての作戦がありましたらお聞かせ願いたいと思います。

○議長（三輪 正） 町長。

○町長（小林則幸） 小黑議員の2つ目のご質問にお答えいたしますが、この緑の陣は、おっしゃるように、獲得ポイントによりまして勝敗を競うものであります。活動内容により獲得ポイント数が決められておりまして、10月末で獲得ポイント最多の自治体が優勝となります。

主なポイントですが、収穫したゴーヤ1本につき100ポイント、講座や学習会の開催は1回3,000ポイント、SNSを含む広報は1回2,000ポイントなどで、優勝を目指すためには獲得ポイント数の高

い事業などを数多く実施する必要があります。ゴーヤ栽培は県内の農業高校の生徒が育てたゴーヤの苗を20本譲り受けまして、グリーンカーテンを育て、収穫を目指されております。本町では、出雲崎中学校と多世代交流館きらりで栽培をしていただきます。ゴーヤの収穫量は予想がつきませんが、現在までの取組といたしまして、広報にもありますように、婦人会で緑のカーテン講座、中学校で環境学習に苗の植栽指導を行い、その様子を広報と町ホームページで紹介し、ポイントを獲得しております。また、町として、きらりのSNSや中学校ホームページなどでゴーヤの生育状況などを定期的に掲載をし、ポイントを獲得しております。ゴーヤ栽培とは別に、にいがたゼロチャレアプリから県内の特産品が当たるキャンペーンに町民の方が応募されますと、1人につき300ポイントが加算され、今年新たに参加自治体内に期間限定でゴーヤ料理を提供する飲食店が登場しまして、その料理を食べることでポイントが加算される企画も加わる見込みであります。小規模自治体にいささか不利な条件ではありますが、多くの皆さんから参加してもらえるようにPRを行ってまいりたいというふうに考えております。これからの予定ですが、新津邸の茶の間とか八手の茶の間を会場に、家庭でできる温室効果ガス削減の講座を開催いたしまして、ポイントの獲得と温暖化対策への意識の高揚を図るため、活動を行ってまいり所存でございます。

○議長（三輪 正） 9番、小黒議員。

○9番（小黒博泰） 我々もこれから今言われましたように、新津邸や八手の茶の間でもって講座を開くということで非常にいいことだと思いますけれども、今まで活動してきた内容、5月16日に多世代交流館きらりで苗植えを行いまして、30日には中学校で苗植えをして、講習を開きました。また、12日に町の婦人会総会の後に緑のカーテン講座ということで講座を開いております。昨日現在のポイントなのですが、今1位が魚沼軍で5万1,600、これGPってあるので、これゴーヤなのでゴーヤポイントという理解でいいのかちょっとあれなのですが、1位が魚沼軍、2位が五泉軍、3位に出雲崎軍が今3万1,700GPということで、一応今現在では3位に入っております。そういう中でもって、ゴーヤでグリーンカーテンというのはもともとの基本のにいがた緑の陣の目的なので、それはそれでよろしいのですが、ちょっと私、町長が答えられるかどうか分かりませんが、グリーンカーテンに対してだけの活動がポイントに加算されるのか、それとも全体を通した中で地球温暖化対策としてほかの講座を開いたときにもポイントがつくのか、その辺町長ないし担当課長にでもお聞きしたいのですが。

○議長（三輪 正） 町民課長。

○町民課長（金泉嘉昭） 制度的なご質問ですので、私のほうからお答えをさせていただきたいと思います。

今ほど議員おっしゃられたとおり、ゴーヤを育てるという場合におきまして、ただ育てただけではポイントの獲得がならず、育てた方からクールチョイスへの賛同をいただくというようなことで、個人の参加につきましては、賛同するための申込書がセンターのほうでございまして、そちら

を提出をいたしますと、お一人1家族につきまして100ポイントが付与されると、そういう制度になっております。また、教室関係につきましても町を通しましてこちらのセンターのほうに実績報告等を上げますと3,000ポイントが付与されるという形になっておりまして、全ての活動につきまして、地球温暖化防止センターのほうに報告をしてポイントを付与されるという形を取っている制度でございますので、お近くの皆さんのほうで、ご家庭でゴーヤ、グリーンカーテン、そういったものを行っているというような情報がございましたら、また私どものほうにご提供いただければ、こちらのクールチョイスのほうに参加をしていただければポイントを付与いただけますので、そのような取組も行ってまいりたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（三輪 正） 9番、小黒議員。

○9番（小黒博泰） ありがとうございます。今の説明だとゴーヤ、緑のグリーンカーテンに関してのポイント獲得というあれなのですが、私個人的に思うのは、グリーンカーテンもいいのですが、地球温暖化を考えた中で、もっと今ある緑のグリーンカーテンのほかにもいろいろ温室効果ガスを削減する方法が多々あると思うのです。

そういう中でもって、これは私の個人の提案というか、あれなのですが、今回にいがた緑の陣に参加したことを契機に、もう町としても何かしらグリーンカーテン以外に地球温暖化対策の活動を展開できればなと思ひまして、私が以前から思っていましたし、ちょっと前に同僚の議員からも提案いただきました。提案の内容なのですが、温室効果ガスを減らすのは焼却、ごみの廃棄でも出るわけなので、今町もいろいろ資源ごみということでペットボトル等々を分別して出されていますけれども、そういう中でもってペットボトルのキャップの収集で地球温暖化、CO₂削減にちょっとでも貢献できるのかな。また、その中にペットボトルをあれすると、町長も先日、出雲崎子育て応援宣言を出された中でもって、これはペットボトルを回収して、それをリサイクルすることで全世界の途上国の子どもに対してワクチン接種の補助にもなるわけです。そういう中でもって、ぜひペットボトルの回収事業というかを、町民の方には分別がまた面倒というか、なってくると思うのですが、今現時点もペットボトルのラベルとキャップと分けてごみ収集に出していると思うのですが、大ざっぱ、そういうペットボトルだけを集めるような事業を展開しようという考えは町長のほうはございますでしょうか。

○議長（三輪 正） 町長。

○町長（小林則幸） 小黒議員から具体的にまた提案もあるわけですが、先ほど答弁をいたしました、うちの町も地球温暖化防止実行計画を今策定中でございますので、小黒議員の発言のようなことも大事ですし、ゴーヤ、緑の陣だけではなくて、申し上げるように、これを契機に地球温暖化によりまして、豪雨とか、あるいはまた大雪とか、あるいは酷寒とか暑い夏とか、いろいろな影響が出てまいるわけでございますので、出雲崎町といたしましても、将来そういうことを考えま

すときに、町は率先的に、他の市町村と歩調を取りながら、地球温暖化に対して実行計画を立てるわけでございますので、今ご指摘のようなこともその一助となると思うわけでございますが、家庭の温暖化ガスの削減とか、あるいはまた森林整備による二酸化炭素の削減とか、いろいろな面で多岐にわたって温暖化に対する実行計画を立てながら進めてまいらなきゃならないと思うわけでありますので、今小黒議員の申し上げたような事業も当然また取り入れながら進めてまいるということのでございますので、この温暖化に対する対応はまず第一歩でございますので、より具体的に計画を立て、実行してまいることが肝要ではないかと思うわけでございますので、ご意見は尊重しながら、今後また対応してまいりたいと思うわけでございますので、よろしく申し上げます。

○議長（三輪 正） 9番、小黒議員。

○9番（小黒博泰） ありがとうございます。町長の前向きな意見をお聞かせいただきました。

今ほどペットボトルということで出たので、分かる方は分かると思いますけれども、ちょっと詳しく説明したいと思いますけれども、町は令和4年度でペットボトルが1万740キロ、約11トン出ております。そのほかにペットボトルの脇の包装、あとキャップですか、それとあとトレイとかああいいうプラスチックの容器の包装材ということでもって4万2,450キロ、約42トンを分別ごみとして処分されております。そういう中でもって、プラスチック容器包装材も町のごみの分別の表というか、あれでいきますと、一応圧縮処理してリサイクルに回しているというふうには書いてありますけれども、実際問題どこの自治体、ちょっと聞きますけれども、内容は全部がリサイクルではなくて、やはり相当の数を焼却、燃やしているというのが現実であります。

そういう中でもってペットボトル、今先ほど言いました約11トン、ペットボトルだけで出ております。それを、いろいろ大きさがあるのであれですけども、350ミリリットルで1本約25グラム、大きい2リットルでもって50グラム、それを全部ただ足して割っただけですけども、ペットボトルの1本の平均が38グラムとして計算しますと、約28万本分、この町から出ているわけです。そうすると、キャップ、蓋だけでも28万個出ているわけなので、それを先ほど言ったワクチンを届けようとするのに換算しますと、キャップ1個、約2グラムだそうなんです。そういう中でもって、町としては約560キロ、多分キャップの重さで出ている計算になると思うのですが、世界の子どもにワクチンを届ける、ポリオワクチン1人分が約20円、キャップにしますと800個で1人分のワクチンになるそうです。そうすると、先ほど言った28万個キャップが出るやつを800で割ると350ということは、350人のポリオワクチンの接種で子どもが救える計算になると思います。そういう中でもって、私も先ほど言いましたように、ただ捨てて焼却されるのであれば、ちょっとでも地球温暖化対策として新たなキャップ収集の事業をぜひ進めていただきたいなという考えであります。これはトータルすればSDGsの貢献にもつながりますし、非常にいいことだと思いますので、ぜひ前向きに検討していただきたいと思います。その辺で今私簡単に説明しましたけれども、町長の意見というか、考えをお聞かせください。

○議長（三輪 正） 町長。

○町長（小林則幸） 小黒議員から本当に詳細に、また勉強されたその結果をお聞きしているわけですが、参考にしながら、そういう点についても心しながら進めてまいらなきゃならんと思っているわけですが、町全体といたしましては、町民各位のご理解をいただきまして、資源ごみの分別等をしっかりとやっていただいておりますので、長岡市にごみ処理を委託しているわけですが、その辺の経費も皆さんもご承知のように、予算よりもずっと下回っているということでございますので、そういう点につきましては、町民の皆さんのご理解をいただいているなと思うわけですが、さらにやはり今回いわゆる私たちが行動を進める温暖化防止について、町民各位のいわゆる理解をさらに深めながら、今小黒議員のおっしゃるような問題も含めて町民各位からのご理解をいただきながら、粛々と進めてまいりたいと思うわけですが、また機会をいただきながら、ご意見をいただきながらやってまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○議長（三輪 正） 9番、小黒議員。

○9番（小黒博泰） ありがとうございます。県内、私も十数年前、町のライオンズクラブに入っていて、そのときライオンズクラブでもペットボトルキャップを集めた時期があったのです。その頃は、見附でたしかペットボトルキャップを取り扱っている業者がありまして、そこに数回集まったやつを届けた経緯もあるのですが、最近どの町村も、スーパーとか行くとやっているみたいですが、あまりコストの関係でもってそういうことをするより、金銭とか、お金でもって直接寄附したほうが良いという考えが何か進んでいるみたいな傾向にあるのですが、ぜひその辺また初心に戻ってそういう取組をしていただきたいと思いますし、新潟のほうで今三条市に北興商事というペットボトルキャップの回収を行っているというところもありますし、他県でありますけど、岐阜県のほうはペットボトルを集めて買物籠にリサイクルして、その収益をワクチンのほうに回しているという業者もあります。その辺今後事業を進める中で、また検討課題としていただきたいと思います。

その中でもって、今回のにいがた緑の陣についてでもそうですし、これからの地球温暖化対策の事業に当たりまして、3つ目の質問ですが、これから町民の皆さんへどのような方法でPRしようとするのか、その辺の考えを伺いたいと思います。

○議長（三輪 正） 町長。

○町長（小林則幸） 3番目のご質問にお答えいたしますが、にいがた緑の陣の活動につきましてもゴーヤの生育状況など、町ときらりのホームページやSNSを中心にPRを行ってまいりますし、またグリーンカーテンによりエアコンの電気の消費量の削減効果や家庭でできる温室効果ガスの削減取組事例なども広報紙を含めて発信してまいります。また、月刊にいがたでは、8月、9月号で参加自治体の活動内容が特集で掲載されまして、本町は9月号に掲載の予定でございます。政府目

標の2050年の脱炭素社会の実現のためには、住民一人一人の、申し上げております理解と協力が不可欠でありますので、緑の陣の活動内容を個人や家庭でできる取組などの情報提供を行いながら、よりゼロカーボンへの啓発活動に努めてまいりたいというふうに考えているわけであります。

○議長（三輪 正） 9番、小黒議員。

○9番（小黒博泰） 今広報紙等々でというPRは分かりました。

ただ、今町のホームページにも町民課のほうから参加しましたとか、こういう実績ありますというのは載っているのですが、なかなかホームページ、SNSを見られる方もいますし、ほかにもいっと。先般の広報いずもさきですか、にも載っていたかに思いますけれども、先ほど言いましたクールチョイスですか、何かいろいろ個人の皆さんも参加すれば、それはポイントになるということであれば、もうちょっと町民の方にそういう地球温暖化対策に関してのPRをもっとしていただきたいなと思います。

その中でもって、町ホームページなのですが、これ私ほとんど毎日のように一応開いて見ていますけれども、3月の新年度予算で仙海議員のほうから、これはホームページというか、町公式ラインの関係で、町ホームページのトップにラインの公式アカウントが載っていないというのはおかしいのではないかという質問が出ました。その中で、早急にアップしますという中で、いまだに町ホームページのトップページにはラインの公式アカウントは載っていません。多世代交流館きらりとかは、もう開ければ下のほうにあるのですが、大本の町のホームページがやはりそういう更新されていなかったり、各課もいろいろSNSで発信しますという中で整備されていないというのはちょっと私的には対応が遅いというか、この時代に関してちょっと抜けているのではないかなと思うのですが、その辺町長はどういうお考えでしょう。

○議長（三輪 正） 総務課長。

○総務課長（大矢正人） ラインの公式アカウントの関係は、私のほうで答えさせていただきます。

3月にご指摘いただきまして、その後すぐに対応していないということで大変申し訳ございません。担当にはその旨話をして伝えてはおったのですが、私のほうでその後更新されているかどうかの確認をちょっと怠っております。早急に対応したいというふうに考えておりますので、よろしく申し上げます。

○議長（三輪 正） 9番、小黒議員。

○9番（小黒博泰） ありがとうございます。本当に早急に行っていただきたいと思います。町もホームページないし町公式ライン関係も予算をつけて一応業務委託ですか、しているはずなのです。その中でもって、やはり何でもかんでも委託業者に任せるのではなくて、一応毎日誰か担当がそういうホームページないし、載っている内容とかもそうですけど、二重三重のチェックというか、そういう機能が私は大事だと思いますので、今後そういうPRとかその辺もそうですけども、ひっくるめて再度町ホームページ、今SNSをほとんど若い人たちは利用していると思いますので、町の

そういう情報発信なんかにしてもホームページはやはり一番大事だと思いますので、ぜひ早急に対応していただきたいし、地球温暖化対策の活動に対しても今まで以上に町として積極的に活動をしていていただきたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

これで私の質問を終わります。

◇ 宮 下 孝 幸 議員

○議長（三輪 正） 次に、5番、宮下孝幸議員。

○5番（宮下孝幸） 2番手として、早々であります、私のほうから一般質問を通告に従いやってまいりますので、よろしくお願ひをいたします。

私のほうから、この町の漁業の今後についてお伺いをしてまいります。私は、過去においても、昨年の議会の一般質問においても、自主財源の確保には当町観光資源を最大限に活用し、人集うまちづくり、観光立町を目指すべきとの政策提言をいたしてまいりましたが、時に町長はこれからの観光はただ見るだけの観光ではなく、当町におけるおいしい魚や海産物などの食文化を生かした観光とすべきとの答弁をされております。沿岸に面する当町では、古来より海の出雲崎として内外にその名をはせ、当町にとり重要な1次産業である漁業が盛んで、町民の食卓を担ってきたことは町長もご存じのとおりであります。しかし、近年の我が町の漁業は、年々漁業者の相次ぐ廃業により船舶数が激減をいたし、まさに疲弊し、衰退の一途をたどり、将来不安に手の届く大変痛ましい状況に進んでいるものと思われまます。

そこで、1番目の質問に入ります。なぜこのような状況に至ったか。当町の漁業は、今から10年前には組合員数が50名、沖合船舶数が8隻、そして磯見世帯数は24世帯であり、年間の漁獲高が税抜き換算でおよそ2億400万円であったものが、5年前には組合員数が47名、沖合船舶数が7隻、磯見世帯数は23世帯で、そして漁獲高はおよそ1億5,757万円となり、さらに昨年では組合員数が38名、沖合船舶数は5隻、磯見世帯数は17世帯で漁獲高はおよそ1億3,460万円まで激減をいたしてあります。たまたま令和4年度はイカが豊漁であったため、漁獲高は1,500万円の増となりましたが、しかし豊漁と言われたその年でさえ、漁獲量は前年対比で5トンも減少しております。もちろん漁獲高や漁獲量は地球温暖化の海中の変化あるいは悪天候による出漁日数との関係、そして市場魚価の高騰、低迷など多岐にわたり、その比較は一概にできないものと思われまます、しかしこれらの状況を見ますとき、間違いなく我が町の漁業は予断を許さない状況にあると思われまます、この危機的状況を町長はどのように捉えておられるのか、まずもっての所見を伺います。

○議長（三輪 正） 町長。

○町長（小林則幸） 宮下議員のご質問にお答えをいたしますが、今日の大変漁業の厳しい状況をかいま見るときに、原因はどこにあるのかというまずご指摘でございます。それは、まず第1点は、漁業者が高齢化をしておると、後を継ぐ後継者がいない、それによる廃船、船を辞めるという状況

がございます。さらに、おっしゃるように資源の枯渇あるいは漁獲高の減少と併せて価格が低迷をしておると。さらに、加えまして、最近燃料費あるいは資材の高騰による要因も重なってまいりました。さらに、ご指摘のように海洋の環境変化によって大きく変わっております。かつては、春はイワシ、夏はコダイ、秋は秋サバ、冬はタラ、この出雲崎の売上げの旬である魚が取れていない。これらの要因が重なって今日に至っておると私は分析しております。

○議長（三輪 正） 5番、宮下議員。

○5番（宮下孝幸） 後で私のほうからも、また町長が今答弁されたことに関連するものを質問の中で出してまいりますが、総論として今受け止めさせていただいて、2番目の質問に参ります。

救済のための実態調査をしてきたかということではありますが、この問題をクリアするには様々な角度からの原因探求が必要となりますが、しかしこれは例えて申し上げるならば人の病と同じです。凶らずも病にかかり、病院に出向くと、医師はまずもって問診や触診により症状を見極め、疑われる病に必要な検査を行うことにより、それらの検査情報と医学的知識を加味して診断を下し、適切な処方箋を出し、処置を施す。しかし、いかなる手当てや妙薬でも診断が的外れでは病は救えません。この漁業問題も今申し上げたとおり産業の病であり、その要因は決して1つではなく、様々なものが起因していること、私も十分承知をいたしてはおりますが、ならばその病を診断することと同様に、年々あしき方向に向かっていく我が町の漁業を救う手だてや方策を探るべく、行政として漁業者などへの聞き取り調査あるいは打開策のための検討、話し合い、過去から現在に至るまでやったことはあるのか。あるならば、一体どれぐらいの頻度で行われてきて、その内容はいかなるもので、それに対してどのような対策を講じてきたのか答弁をいただきます。

○議長（三輪 正） 町長。

○町長（小林則幸） 合併前は1年に1回、漁協の総会にお招きをいただきました。そのときには、いわゆる漁業の経営内容、さらに決算を含めて次なる年度に進む予算あるいは事業計画等々を私たちもお聞かせをいただきました。その中におけるいろいろ漁業問題についても意見交換しながら問題点を共有してまいりました。しかしながら、合併後はそういう機会はなくなりました。しかし、私たちは年に1回はいわゆる小型船主あるいは磯見の皆さんと1回の懇談会をすると。また、若手漁業者の皆さんとも意見交換をしてまいりました。また、その後におきましても私たちは各産業団体、これは年に1回皆さんとお集まりいただいて、それぞれの立場における窮状なり問題点をしっかりと抽出をいただき、それに対するお答えもし、また協力してもまいりました。さらに、私は年に六、七回は出雲崎支所に出向きまして、支所長あるいは職員と今の現状についてお互いに窮状をかいま見ながら、対応をどうするかということも個人的にも話し合いをしてまいったという経過がございまして。

○議長（三輪 正） 5番、宮下議員。

○5番（宮下孝幸） 行政として合併後、こういったことは行っていないが、しかし町長は個人的に

年6回から7回、漁業者との話し合いをされてこられたということではありますが、そこで出された問題点がたくさんきつと出たのだらうと思うのです。その問題点に対して、行政としてどういう対策を講じればいいのかと考えられたのか、その辺のことをもう少し詳細にお聞かせいただきたいと思いません。

○議長（三輪 正） 町長。

○町長（小林則幸） ちょっとお尋ねしますが、3番の問題に入りましたな。3番の質問に入ったのでしょうか。

〔「いや、2番です」の声あり〕

○町長（小林則幸） あなたが今言わんとすることは、3番の質問に答えるということがあるのですが。

〔何事か声あり〕

○町長（小林則幸） それでは、答えます。

なお、対応としまして何をしたかということですが、かつて令和2年10月頃でございました。率直に申し上げまして、藤丸といういい船だったのですが、いわゆる佐藤さんから船を辞めるというお話をお聞きしました。直ちに町は行動を起こしました。船を町が買い取り、さらに当時たまたま町外の皆さんの中でぜひその船に乗り、漁業をしたいとタイミングよく合致しました。そこで、私たちが全力を挙げまして漁業者側と話し合いをしたのですが、残念ながら漁業者の理解が得られなかったという事実をあなたはしっかりと認識いただきたい。町といたしましても、これらに対しましても例えば資源の枯渇ということに対しましても、稚魚とか稚貝の放流とか、あるいは昆布栽培等々につきましても、町といたしましても漁業者の努力に最大限の努力をいたしてまいっております。また、今回の燃料高騰等につきましても、私たち町といたしましても議会の皆様のご理解をいただきまして、積極的に助成をしてまいっているという事実もございます。また、漁業補償制度というのがあるのです。これは大変有利な制度です。いわゆる直近5年間のうちの最高、最低を除去し、中央の3年間の平均値を取った、その下回った場合には補填をすると、いい制度です。この保険料に対して町は50%補助しております。その辺の事実も皆さんからご理解をいただきたい。行政として、できる限りの範疇では最大限の努力をしているということをご理解いただきたい。

○議長（三輪 正） 5番、宮下議員。

○5番（宮下孝幸） 3番に関連した質問と町長は答弁されておりますが、行政は行政として最大限の努力をしてきたのだということではありますが、私なりに、これ3番のほうに入っていきますが、本当の原因は何かという、今町長がおっしゃられた要因もたくさんある。先ほど来から私申し上げておるとおり、一因にしてこのことが全てこうなったということではないのだらうということには分かっています。しかし、私なりに一つ考えていること、あるいはまた思っていることを申し上げるならば、いわゆる残念ながら今現在でも廃業を検討している方もおられると聞いております。町長

の今答弁にもありました、過去廃業を余儀なくされた方々には船舶の老朽化を機に高齢化や後継者不足などが重なり、泣く泣く廃業された方も多いたとも聞いております。

これら様々な要因はあるにせよ、私はその一例を考えてみました。現在、漁船を持つ漁業者に聞きますと、網を引き揚げるために船に巻かれているロープを全て取り替えると400万円、エンジンを新たに積み替えるだけで2,000万円、さらに今どき船舶機器を備えた新造船を造るとなると、何と1億円かかるとの話がありました。つまり1億円を投じて新造船を造り、漁業を継続したくとも、事業採算に大きな不安を覚え、やむなく廃業の決意をする方も多いのではないかと思います。ましてやご子息への事業継承を期待したくとも、これではとても事業の継承を頼めない。幾度かこの漁業問題は当議会でも取り上げられてはおりますが、決定打のないまま今日の状況を迎えております。将来確実に出雲崎の漁業は、このままでは絶えてしまうのではないかと。仮に今申し上げた新造船を計画する漁業者に50%の補助を行うとしても、1隻当たり5,000万円、それが複数に至れば億単位の財源が必要となるのでありまして、つまり救うべき手だてには多額の予算、その財源が必要だということ。この問題以外にも、当町の過疎化問題や医療難民や買物難民の問題あるいは若者定住促進策、子育て応援宣言のまちづくりの推進やら他に様々にして課題は山積しております。であるからして、これら全ての施策を盤石とするためには、様々にして投ずべき多額の財源が必要になるということを申し上げております。であれば、私は恵まれた観光資源を生かして、人の集う町で立町して自治体として大きな経済循環を起こして、依存財源から自主財源への転換を図るまちづくりを進めるべきだということを選任以来曲げることなく繰り返して、一貫して申し上げてまいりました。今だけを見て、事を起こすことは誰にでもできます。しかし、私ども議員も町長も選挙の洗礼により町民から預かった4年間には重大な責任があります。もちろんこの問題は町長だけの責任ではなく、議決権という最高権限を持ちながら、最終意思決定機関として何十年もこれを放置してきた議会の責任も大きい。我が町の宝である漁業、町長は行政のかじ取りをされる行政長として、我が町の漁業再生にどのような手腕を持っておられるのか答弁をいただきたいと思っております。

○議長（三輪 正） 町長。

○町長（小林則幸） まず、ご発言の中で、漁船を造るとか、あるいは網を替えるとか、いろいろな面で経費がかかると、これは当然大変だと思うのです。それにつきましては、漁船とか、あるいは漁具の、国もいい制度を設けているのです。リース方式とか、あるいは沿岸漁業改善資金とか有利な資金があるのです。それを活用してもらえるのです。そこにおける投資、それに対して町が助成をするということは、農業とかいろんな面で考えまして、これはちょっと不可能です。やはりそういうものの制度的なものとか、そういうものについては町は積極的に漁業者に有利になるような制度の活用を進めながら、ぜひ新造船なり、新造船を造るという意欲のある漁業者だったら私はもう大歓迎です。さっき申し上げたように、いい船があっても廃業しなければならないという立場の方がいるのです。そういう船を活用するというような方法もあるわけですから、しかしこういう時代

ですので、経営に関わるそういう投資等々も十分漁業者の皆さんと話し合いながら進めてまいりたいというふうに考えるわけでございます。

この後の行政としての対応、ちょっとそれに触れさせてもらいますが、これはもう喫緊の課題は、漁業というのは農業とか林業とはちょっと違うのです。いわゆる漁業に従事するには操舵船の免許とか、あるいは魚礁がどこにあるのだとか、あるいは海流はどうなっているのだと、あるいは網の投げ入れはどうすればいいのか、もう大変な知識と、ある程度の技術がなければ対応できないのです。そういう意味で、私は漁業者の皆さんが現状の中で後継者をいかに求められるのか、その辺を確かめてみたい。そういう後継者を求めながら、なおかつ漁業を継続しようとする意思があるなら大いに歓迎します。行政としても最大の努力をいたします。その辺が先ほど申し上げました藤丸の廃船により町が参入しようとしても理解が得られなかった、その辺の事情は具体的には申し上げられませんが、拝察をいただきたいと思っております。

そういう中に我々行政といたしましても、あなたのほうから行政長の覚悟という発言があります。私は、まず船主、漁業者、皆さんがこの現状の中で将来後継者を含めてどういうお考えがあるか、その覚悟ですよ、その覚悟を確認したならば、私たちは、行政は全力を挙げて応援してまいりますよ。そうでしょう。私は、そういう意味において、町も今まで衰退をただ座して待っておったのではない、協力するところは協力申し上げながら進めてまいった。そういう中における、農業もそうです、林業もそうだ、漁業も大変厳しい。そのために、町も今申し上げているようないろいろな意味で話し合い等をしながら、また要望に対してできる限りの行政としての努力はしてまいりたいというふうに考えています。

○議長（三輪 正） 5番、宮下議員。

○5番（宮下孝幸） 次の4番に関わる質問まで町長の答弁をいただいております。ですから、ここではあまりくどくどと申し上げることはいたしません。先ほど申し上げた10年前の漁業者数や船舶数、さらには遡って町長が初当選をされた36年前、その当時の出雲崎の漁業は船舶数も格段に多く、港は活気にあふれ返り、船まつりとなれば隊列をなして行われたあの勇壮な船団パレード、その当時の漁業と現在を比較すれば、比較にならない悲惨な状態で出雲崎の漁業は残念な時代に至っていること、これは明確な事実です。行政は行政として努力をされてきた、それは分かっています。しかし、結果が今この状態になってしまったということになれば、さらにどういう方策をもってこれを守っていくかということの思案が必要になってくる。私は、大変厳しいことを申し上げますが、昨日や今日町長になった人にならこんなことを言いません。在任36年もの長き期間であれば、何がしかの打つ手はあったのではないのでしょうか。なぜこのような状況に至ってしまったのか、大変残念でなりません。先ほど町長は、覚悟について若干触れられました。再度お聞きをいたします。大切な宝である漁業、行政の長としてその覚悟をお聞かせください。

○議長（三輪 正） 町長。

○町長（小林則幸） 行政としての、私は率直に申し上げたいと思うわけでございますが、まず我々が行う行為は、漁業者の皆さんが、よりいかに安全かつ事故のないような対策を講ずるか、これがまず第一義です。その意味におきまして、町といたしましても航路の安全を期すための浚渫、あるいは防波堤の設置とか、あるいはまた護岸等々の耐震対策等いろいろ進めてまいりました。この結果、平成2年から4年間、これらの対応、対策に対しまして、国、県が約3億8,000万円投じております。まず、行政がなすべきことは、漁業者の操業等は出漁日数を確保する、いろいろな面においても、より安全操業ができることを第一義として全力を尽くすと、これが行政の範疇です。次ににおける漁業の皆さんの今後、先ほど申し上げました、それにつきましては、漁業者の皆さんが本当にどのような覚悟を持って対応されるのか、その辺のいわゆる漁業者の皆さんのお考えをお聞きしなければ、行政が、例えばあなたは今の漁船をやっておられますが、跡取りはどのようなのですか。跡取りがなければ、跡取りになる後継者となる乗り子をどうされるのですかと、そういうことを私たちはなかなか言い切れません。もし仮にそういう漁業者の皆さんが乗り子がいない、あるいは後継者が欲しいということになれば、私たちも最善の努力をする。あなたのところ後継者はいないのですか、どうですか、どうしますかということにはちょっと私たちは口を出せません。行政が行う範疇というのは決まってしまうのです。行政としては、あらゆる漁業者の皆さんの例えば冷蔵庫が故障したとか、あるいはいろいろ施設が壊れたと、そのときに対しては、町はできる限りの応援しているのです。そういう応援に対して漁業者もやはり自らこの窮地をいかに脱するかという一つの汗と知恵を出してもらいたいと私は思っています。そういう中における行政がその方針が決まれば、全力を挙げて限りなくできる限りの応援をしていきたいというふうに私は思っています。行政の行う範疇と、業者自体と、その取り巻く環境というのはなかなか難しい問題がある。難しい問題があるゆえに我々も苦悩しながら、いかに漁業を持ちこたえ、持続、継続させるのかということに最善の努力をしているということをご理解いただきたいと思っております。

○議長（三輪 正） 5番、宮下議員。

○5番（宮下孝幸） 町長今お話しのとおり、行政は行政で努力をされてきた。それは、努力はされてきたことは私も承知をしているのです。ただ、政治の立場で考えるならば、やはり結果です。この状況に至った結果ということを見るときに、これは放置できない状況だなということになるわけでありまして。いいです。5番目の質問に入ります。

早急な具体策の提示を求めるといことでありますが、いろいろと申し上げ、大変失礼もあったやも思われますが、地方自治法上、町長と議員は対等な立場という自身の責任から大変厳しいことも申し上げながら答弁をいただいております。しかし、実態はもう待たないです。瀕死の状態です。覆水盆に返らず、一度絶やしてしまえば、再生することは限りなく不可能です。当町の一大イベントとも言えるあの船まつりはおろか、今抜本的な具体策により、この町の漁業を救い上げなければ、「海の出雲崎ちよいと来て見やれ。春は鯛で大漁の浜よ」と歌われた、あの出雲崎お

けさの文言でさえ死語と化してしまうのです。イワシの頭も信心から、ないものは起こせば一大観光化する、そのいい例は寺泊の魚市場ではないですか。ただの浜辺だったあそこは、平時300万観光と言われ、コロナ禍で100万減っても200万観光ですよ。私が一案として、以前老朽化した天領の里の正面の鉄骨建ての外側通路解体時に、その空いた跡地に複数軒連ねた貸し店舗方式の建屋を設置し、そこで特産物や土産物を販売してはとの提案をいたしました。そこで、当町が売りとする浜焼きや魚介類あるいは野菜や米、そしてその他様々な当町が売りとしたい特産物を扱えば、天領の里はさらににぎわい、人集う名所となり、そしてそれは町全体の交流人口増加の手始めとなると申し上げております。しかし、結果はどうでしょう。今の天領を見れば分かります。

先日の補正予算でもプロモーションビデオの予算が可決をされました。海外発信、町外発信、ついこの間行われた出雲崎大祭をご覧になられたでしょうか。担ぎ手不足で、みこしを台車に乗せて運ぶという事態に至った。私ども若い頃の状況を見ますと、大変寂しい思いをしながら、あの台車を押している若い人たちの姿を見たとき悲しくなる。こんな状況を見ていて、プロモーションで宣伝するにもやはり中身は必要だということを私は痛切に感じたのです。宣伝だけしても、中身がなかったらやはり身にならない。

例えば漁業救済のヒント、ここでは時間の関係もありますから、くどくどと申し上げることはいたしません。町長もご存じのとおり、昔は港に魚が揚がると多くの人たちがそれを買い求める、仲買。そして、町にはリアカーに積まれたたくさんの魚を何人もの人たちが販売をし、余った魚は浜焼きにして、さらにまた販売をする。さらに、また背中に魚を担ぎ、越後線に乗って旧西越や遠くは西山町まで行商に歩いた方々もいらっしやった。つまり分かりやすく言えば、売手市場だったわけです。買手がたくさんいて、競って、競って、高値、高値で来たから漁業者は高いお魚を売って、生活を立てることができていた。だから、あれだけの船舶数があったのではないのでしょうか。助子と呼ばれる方々、今はもうほとんど皆無です。見てください。浜焼きをされている店舗、今一体何軒ありますか。つまり私が先ほど申し上げた、天領の里の一例として申し上げた販路面、販路拡大、そして漁業者救済、この両側面から思案をしていかないと、もう漁業者だけに任せていては解決にはならないということは、今の現状を見れば分かります。漁業者との話し合いによる検討はもとより、先ほど町長も答弁されました。国や県へのめげない陳情の繰り返しや有利な制度を生かした取組の検討など、血眼になってでも模索をしないと、このまま放置すれば悔いを千載に残します。この町にとり、財産とすべきものは一体何で、何が本当に守るべきものであり、残すべきものは一体何なのか。投ずべき先は一体どこで、そこに全知全能を注ぎ、英知を結集し、具体策を早急に策定をいたし、議会にもぜひ提示をいただくことを強く求めたいと思いますが、その点につき町長の最終答弁をいただき、以上5番からの質問を終わります。

○議長（三輪 正） 町長。

○町長（小林則幸） ご指摘をいただいているわけですが、今までも町はおっしゃるように

漁業者といろいろな話合いもしてまいりました。例えば水産加工場と、あるいはいろいろな意味で漁業者と私が提案しながら受け入れるべく努力してまいりましたが、残念ながら受け入れてもらえなかった。全く今宮下議員がおっしゃるように、この海の出雲崎、本当にうまいお魚を取りながら、この町で鮮魚を売る店がないです。そういう点についても本当に私は今心を痛めながら、何かその辺の打開策はないか、それはしかしなかなか難しい問題があるのです。そういう意味合いにおいて、行政がどういう立場で加入するか、私は先ほど先般申し上げているように、買物難民とかそういう問題については海岸地区においても移動販売車がいよいよ具体的に動くという一つの事実も私は確認はしております。場合によっては、こういう出雲崎で取れた魚を出雲崎の店頭で売って、町民の皆さんと外から来た皆さんからお買上げをいただくというような状況が生まれてこないと、なかなか私は厳しいと、もう本当に残念なのです。

今、浜焼きの件も出ましたが、浜焼きも今浜かつなり、いろんな皆さんが頑張っていたいている。しかし、ほかの店に聞くと、これも我々一代限りだというような話も聞いている。その後継者をいかに育てるか、もう難題は山積しておるのです。しかし、そこにおいて行政も最大の努力をしますが、やはりそういう啓発を私たちはしながら、漁業者の皆さんあるいは町民の皆さんからご理解をいただくということが大事だと思っています。先般の補正等でもがんばる街なみの助成金も4件上げました。こういう形が今徐々に出つつあるわけですから、そういうものに期待しながら、私はやはりこれは町以外の人たちの中でこの町に魅力を持っておいでをいただいて、そういう天領のうまい魚を店頭で販売するというような方々が出てくれれば、本当に期待しております。そういう意味の努力はいたしてまいりますが、しよせんやはり主体は漁業者なのです。漁業者が本当にどうのご理解をいただけるか。

率直に申し上げまして、漁業者の個人個人の財政内容、これは抜群です。いい所得を上げておられるのです。だから、私はそういう意味で後継者を育てながら、この現状をさらに伸ばしていただきたいという考えを持っているのです。だから、小型船の場合も何とか後継者を育ててもらいたいなと思っています。ただし、現実には、ある船主では、いわゆる後継者といいたいまいしょうか、乗り子を募集しまして3か月間試験的にお願いしたと。さらに継続したいということでお願いしたわけですが、その方は3か月で辞めさせてくれということで辞退されたということも聞いております。難しいのです。船は、乗り子というのは船を継ぐというのは大変だと思うのです。相当の努力、知識がないとできないことですから、これは我々としては漁業者に対して先ほどから申し上げている現状の中で、しかもそれぞれの業者はいい所得を得ておられるわけですから、それを継続的に次につなぐという一つの方針とか気持ちを持っていただければ、我々としても対応するのです。そういう点を皆さんからご理解いただかないと、先ほど申し上げるように行政が行う範疇というのは限定されてくるのです。農業にしてもそう、林業にしてもそうなのです。そういう面で、町といたしましては行政のなし得る範疇における最大の努力はすると、努力してまいりました。そのことは皆様から

ご理解いただきながら、今ご指摘のような問題点につきましても改めて漁業者と率直に話し合いをしながら、行政として、協力するところは全面的にまた協力してまいりたいというふうを考えているわけですので、皆さんもそれぞれのお立場でいろいろなお付き合いもあるわけですので、その辺についても議員からもご努力いただきたいなと思っておりますので、またよろしくをお願いします。

○議長（三輪 正） この際、しばらく休憩します。

（午前10時36分）

○議長（三輪 正） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前10時48分）

◇ 島 明日香 議員

○議長（三輪 正） 日程第1、一般質問を続けます。

8番、島明日香議員。

○8番（島 明日香） では、一般質問をさせていただきます。

「まち塾」の今後の方向性についてです。当町のまち塾も2年目を迎え、今年度も25名の入塾がありました。全国学力・学習状況調査の当町の中学3年生と小学6年生の学習時間が全国、県に比べて非常に短いということが開塾の背景となっている中、昨年11月のアンケート調査では、学習時間や意欲の増加、テストの得点が向上してきたなど、塾生、保護者共に高い評価を得ていることは大変喜ばしいことだと思います。そこで、以下のことについて質問いたします。

1、まち塾卒業生の5年、10年後の未来像は、町長はどのようなものを描いているのかお聞かせください。

○議長（三輪 正） 町長。

○町長（小林則幸） 島議員の1つ目のご質問にお答えいたしますが、本年度2年目を迎えるまち塾も高校受験等に焦点化した学力の向上を目指すだけではなく、知的好奇心を高めながら学び続けようとする態度を身につける考え方を鍛える等を主眼に置くことといたしまして、幾つかの方針を定めました。また、目的や方針と合わせまして、講師や特別講義の先生方から学習の楽しさだけでなく、様々な知識を経験、吸収してもらいたいと考えたものでございます。まち塾の立ち上げにつきましては、島議員のおっしゃるように、家庭で学習する時間の短さというものも一つの理由なのですが、私はやはり何よりもこの公設学習塾を立ち上げた一つの目的は、学びたいという意欲がありながら、塾にも通いたい、勉強したいという子どももたくさんおられる中、諸般の情勢の中、環境がそれを許さないという状況の皆さんもおられるのではないかなというような考えの中、できるだけそういう方々の潜在的なすばらしい個性なり、あるいはその能力がまだまだ表に出てこない、

そういう皆さんを何とか自信を持って学ぶ意欲を持っていただける、そのことを期待しながら、この学習塾を立ち上げたわけでございます。さらに、5年、10年後というご質問でございますが、それぞれがそれぞれの道を歩きながら、10年後には社会人としてそれぞれの立場でしっかりとこの塾で学んだものが成果として活躍をされるというものを期待しておりますし、さらに願わくば、この町に生まれ、育ち、学び、育ち行く皆さんからこの町にさらに住み続けながら、この町の大きな躍進に期する人材として活躍してもらいたいという期待を込めております。この学習塾で学ばれた塾生は、やはり私はこの過程の中、自分の力を改めて自信とし、行動を起こすということによりまして、あるいはこれからの10年後による社会人として大変耐え難い、厳しい試練に立ち向かって、そこにおける強靱な意思と行動力というものがおのずと養われてくるだろうというものを期待しながら、この学習塾を立ち上げたところでございますので、私はこの学習塾で学ぶ生徒は必ず将来は大きな活躍を期待されるというふうに感じながら見守ってもらいたいというふうに考えております。

○議長（三輪 正） 8番、島議員。

○8番（島 明日香） 5年、10年後といえば、就職を考える、結婚や出産を考える年代だと思えます。そのときに出雲崎で生活したい、働きたいと選択肢の一つに入れてほしい。町長おっしゃるように、できることなら町の存続のために町で大いに活躍をしてほしいと私も思っています。今子どもたちや保護者がまち塾に求めていることというのは、学習時間の確保や学力向上というのが大半だとは思いますが、私たち町の未来を考え続けなければならない者として、やはりまち塾を通していつか町の未来を担ってくれる大人になってほしいと願いを込めて、今は子どもたちに投資しているという考え方で間違いないでしょうか。

○議長（三輪 正） 町長。

○町長（小林則幸） おっしゃるとおりでございます。私は常に教育長、関係の皆さんもおられますし、また校長、教師等、皆さんのお話合いの中、教育こそ出雲崎町の大本であると、私はやはり教育に対しては惜しみなく、もう金をつぎ込んでも立派な、そして強い意思を持った人材を育てることに対しては、もう常に前向きに意欲を持って対応してまいっておりますので、まずその辺もご理解いただきたいと思っております。

○議長（三輪 正） 8番、島議員。

○8番（島 明日香） 実際まち塾を卒業した生徒も、絶対通ったほうがいいのか、目標としていた高校をレベルアップさせたのだよとか、今年度の塾生もまち塾に通えばどこどこ高校も夢ではないというふうに目標ができたり、自信につながっているという保護者の声もじかに聞いています。今やAIもうそをつくような時代になってしまいました。そんな時代の中を生き抜いていかなければならない中、学力向上ももちろん大切なことではあるのですが、町の未来を担ってくれる人材育成を視野に入れて考えたときに、テストの点数が高い人だけが選ばれるような未来は少し悲しいか

などと思います。昨年度の塾生にも好評だったように、きらりのピザ窯でピザを焼いて食べたことのように、町への愛着を育める時間ですとか機会を提供していくことも今後ますます必要になってくるのではないかと考えています。将来この町でどんな花を咲かせてほしいのか、町長の意思を明示して行ってほしいなどと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（三輪 正） 町長。

○町長（小林則幸） 先ほども申し上げましたように、塾で学び、学ばない生徒も本当にこの町で教育を受け、備えある時代の中において町の姿勢をしっかりとまた感知していただいて、それをやはり将来に持ち続けていただきたいなという考えを持っております。私たちも本当にこういう一つの事業を起こしているわけですが、申し上げておりますように、ただこの塾で学んで、卒業されていろいろ社会で活躍されるというのではなくて、将来をしっかりとひとつ見守りながら、場合によっては先ほど来申し上げるような、町にひとつ帰っていただくというような、そういう接点も持っていかなければならぬではないかなというふうに考えておりますので、2年目でございますので、またさらにその成果を確かめながら、さらにその後のお子さんたちのいわゆる生きざまをまたしっかりと見守りながら、さらなる町としてのやはり努力は惜しまず進めるべきだというふうに考えています。

○議長（三輪 正） 8番、島議員。

○8番（島 明日香） 子育て応援宣言の町ということで、その中で今後も継続して町長のほうから発信し続けて行ってほしいなと思います。

2つ目の質問に入ります。私たちももっともっと視野を広げるため、そしてよりよいまち塾になるためにも、他県の公営学習塾の取組等を視察に行く考えはありますでしょうか。

○議長（三輪 正） 町長。

○町長（小林則幸） 島議員の2つ目のご質問にお答えをいたしますが、新潟県の公設塾としては、阿賀黎明高校内の高校生を対象としたものとか、放課後等の支援活動を実施している小中学生を対象としたもの、また全国には様々な理念に基づく学習塾が開設をされております。また、講師も地域おこし協力隊から行政の会計年度任用職員、あるいは公設の民営として進学塾系の企業に委託するもの等々、実際の運営や講師についても様々な公設塾がございます。先ほども申し上げておりますように、私たちのまち塾も2年目ということでございますので、塾の理念を説明いたしましたが、この実現のために、本年度は特別講義も既に2回実施するなど取組をいたしながら、講師と事務局が一体となって進めてまいっております。まずは、やはり出雲崎町のまち塾のスタイルを明確に打ち出しながら、さらなる努力をし、改善をするところは改善をする。先進的な事例も視察研修、その後における先進的なそういう公設塾を研修視察するというのも必要かと思っておりますので、しばらくは2年目でございますし、講師陣も張り切って、またいろいろな意味のそういう工夫を凝らして授業を進めていただいておりますし、塾生もそれに対応しながら真剣に学んでいただいております。

けでございますので、もうしばらく町なりきのいわゆる理念に基づいた公設塾を続けながら、さらに充実を図るためにも、申し上げますように、先進地の視察とか、いい事例があったらそれをまた取り入れるというような方法をより一層公設塾の充実を目指してまいるという所存でございますので、そういう点もご理解いただきたいと思えます。

○議長（三輪 正） 8番、島議員。

○8番（島 明日香） 今町長のお話の中で特別講義が2回予定されているということでしたが、もし分かればその2回の内容を教えてください。

○議長（三輪 正） 教育長。

○教育長（曾根乗知） 今年度は、町長がお話のように特別授業を既に2回実施して、これからも取りあえず1回は計画しております。5月には、現在私立高等学校の進路指導を担当している方で、前高等学校校長の方から特別授業を第1回目、5月にさせていただきました。6月には、複数の会社を経営していて、市の教育委員も務めていらっしゃる方に講義をしていただきました。次回、7月には元県の義務教育課長をされた方からもまた講義をしていただく予定になっております。昨年度、島議員おっしゃったように、塾生の4人に1人が勉強が楽しい、それから塾生の4人に3人が勉強が分かるようになってきた、それから塾生の6割が学校のテストの得点が向上してきたというようなことを言ってくれました。それを今年度継続するには、町長おっしゃったように特別授業等、新しいことを今年度は取り入れて、昨年度のように塾生が学習意欲を高めてくれるように、またさらに高めてくれるように取り組んでいきたいというふうに思っています。

以上です。

○議長（三輪 正） 8番、島議員。

○8番（島 明日香） すばらしい内容だと思いますが、ほとんど座学ということでしょうか。

○議長（三輪 正） 教育長。

○教育長（曾根乗知） これまで行いました5月、6月は講義式の内容でございました。ただ、講義するだけではなくて、塾生に講師が、「こういうことについてはどう思う」と投げかけながら、また答えていただきながらやった講義もございました。講師なりに塾生の心に響くように工夫をされて、今までは講義をしてくださいました。

○議長（三輪 正） 8番、島議員。

○8番（島 明日香） 先ほども申しましたが、ピザを作って焼くというような、勉強とはまたちょっと違って息抜きの時間なんかも入れて、体も使って、そういった特別講義の中に取り入れていただけたらなと思います。優れた講師陣7名により受講ができ、受講料無料で塾に通えるということだけでも保護者にとっても大変ありがたいことですし、注目すべき内容だと思います。町外の方にも「出雲崎は相変わらずすごいね」と声をかけていただくことも多々あります。

先ほどの町長のお話の中にもありましたが、公営学習塾が全国でかなり広がりを見せてきている

ということで、信州大学などの研究チームの実態調査なんかでも、全国で少なくとも170の自治体に広がっているということが調査で分かったそうです。過疎化が進んだ地域などで2012年以降広がりを見せ、全国で約1割の自治体で公営学習塾が開設されているということになります。先ほどもおっしゃられたように、自治体の中でも担当する部署ですとか、活動内容、運営方法など様々で、近年では地元との関わりが希薄になりがちな高校生にまで対象を広げていたりと様々な工夫を凝らして公的な学習支援施策が実施されていると私のほうも聞いています。事業の実施要綱にも先ほどからおっしゃっておられるように、「自らの好奇心を高め、学び、考え続ける力を鍛え」とあるように、やはり学びを通して好奇心を膨らませるための取組についてももっと視野を広げていく必要があるのではないかなと思います。まだ当町のまち塾も2年目ではありますが、今年度は難しいかもしれませんが、来年度以降、全国の様々な工夫をされている学習塾に視察等に行く考えをいま一度お聞かせください。

○議長（三輪 正） 町長。

○町長（小林則幸） 先ほど申し上げましたように、2年目を迎えている公設学習塾、それなりの町の方針で進めてまいっているわけですが、島議員のおっしゃるように、ここにあぐらをかいているのではなくて、やはり公設塾を開設した以上は、学ぶ生徒に、より効果的に結果を求めなきゃなりません。そういう意味で、方針は方針としながらも、幅広くやはり2年目といえども、おっしゃるように特別講座なり、あるいは講師の懇談会なり、あるいは塾生の場合によってはそういう先進地のこういう学びもやっているのだよというような現地を視察することも必要かなと思っています。私は公設学習塾、ただやったのではなくて、その効果というものを子どもたちからしっかりと感じていただき、また将来に資する公設塾にしなければならないわけですので、とどまることなく、やはりあらゆる観点から充実した公設塾をさらに進めると、講師についても必要によってはさらなる充実も必要かと。そうなってくれば、町としても全力を挙げて応援してまいりたいというふうには思っているわけですので、ご意見を尊重しながら、今後の公設塾を進めてまいりたいと思っています。

○議長（三輪 正） 8番、島議員。

○8番（島 明日香） 子どもたちの反応などを見ながら、子どもたちに寄り添うことが大前提ではありますが、県内のみの発信で満足することなく、全国的にも取り上げられるような注目を集めるまち塾を目指していただきたいと思います。また、それによって魅力的な教育環境整備によって、子育て世代が移住してくるという可能性も十分にあり得ますので、ぜひ前向きに検討していただきたいと思います。

以上です。

○議長（三輪 正） これで一般質問を終わります。

◎散会の宣告

○議長（三輪 正） 以上で本日の日程は全部終了しました。

本日はこれで散会します。

(午前11時08分)